



<p>グループ討議</p>	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u>          ・参考になった支援方法等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひききる感覚をつかむために最初は教員が手を添え繰り返し練習する。ひききる感覚がつかめるまでは支える左手は教員と一緒に支える。</li> <li>引っ張る距離を短めから始め、徐々に伸ばしていく。</li> <li>右手の肘を伸ばして前から引っ張るようにすることで可動域を増やす。</li> <li>ゆっくりひっぱる練習をする。</li> <li>最後がわかるように、ダブルリングをはずれるまでひっぱる（すぐにとれるような位置につける）</li> <li>ダブルクリップ+リングに音つけて意識をむけるきっかけにする。</li> </ul>
<p>2学期の振り返り</p>	<p>・児童生徒の様子、変化</p>	<p>様子：目の前で服やズボンを広げて提示すると、自ら手を入れ返すことが定着した。途中で手をはなすことはまだ見られるが、ひききることが増えてきた。</p> <p>変化：最初は、途中から手を入れると袖や裾の端以外を握りうまく返せないことが多かったが、端を持つイメージがついてきて、途中からでも端を握ってひききることができるようになってきた。</p>
	<p>・教員自身の成果や課題          ・効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>成果：グループ討議で自分では思いつかない新たな支援方法に気づけ、実践することができた。</p> <p>課題：最後までひききることや返さないといけないということに気づけるような支援方法の検討。</p> <p>実践：袖や裾の端を握ることを教員が手をそえて何度か練習することで、少し意識が見られるようになった。右手の肘を伸ばして前から引っ張るようにし、可動域を増やすことで、勢いよくひききることが増えた。</p>
<p>まとめ</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u>          ・児童生徒の来年度の目標、課題等</p>	<p>目標：自分で衣服を持ち、返しきることができるようになる。</p> <p>課題：最後までひききれるようになること。</p> <p>自分で、左手で衣服を持ちながら返せるようになること。</p> <p>机に置いた状態から自分で持ち、返せるようになること。</p> <p>言葉かけ無しで、ひとりで返せるようになること。</p>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持つ位置を上の方に促すと、お皿を乗せたお盆を持ちながら歩くことができた。</li> <li>・お盆を机に置く少し前のタイミングで放してしまうことが多い。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お盆の上の方を持つという、現状、本人にとっての最適である持ち方を見つけることができた。手を放すとお盆が落ちてこぼれてしまうということを伝えることが難しかった。</li> <li>・お盆を机に置くタイミングで手を放してしまうことが多いため、その時には教員も前から持って落ちないようにしながらも、言葉かけを行って放さないように促す。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	椅子やカバンなどの大きなものや、盆やお椀など小さなものを持つ・持ち続ける・運ぶといった経験を積み、手指の使い方を学んでいく。

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（ダウン症候群・甲状腺機能低下症）
	• 対象児童生徒の課題	立位でバランスをとって靴の脱ぎ履きを行う。 教員の促しで靴の脱ぎ履きができるようになってきている。床に座って履き替えることが多いため、立位での脱ぎ履きが課題である。
	• 自立活動の目標	手で支える場所を確認し、立位で履き替えをすることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span> コミュニケーション
	• 支援の手立て	ズボンや靴の履き替えの前に、立位で履き替えるように促す。壁やロッカー等支える場所を確認し、バランスをとって履き替えることができるようにする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	教員の促しがなくても、少しずつ立位で靴やズボンの履き替えができるようになってきた。靴のテープがきつく閉じている時や、かかが入りにくい時には床に座って履き替えることがあるため、履く前にテープをゆるくして履くようにしていく。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	支えがない場所やバランスが取りにくい時には座ることがあるため、壁に手がつく位置で靴の脱ぎ履きを行った。支えがあることで、立位で履き替えができていた。本児だけでなく、他児にも立位で履き替えることを促し、他児を見て立位で履き替えることもできた。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 立位で脱ぐことができた時にはたくさん認めてほめ、達成感を味わうことができるようにする。</li> <li>• 他の児童が立位で履き替えている様子を見て、立位で履き替えるという意識をもつことができるようにする。</li> <li>• 担任以外の教員に立位で履き替える経験も積み、定着をめざす。</li> <li>• 「手伝って」と言える機会を設ける。</li> </ul>

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>1学期末よりも立位で靴を脱ぐことが増えてきている。履く時にかかとがひっかかると、座って履くことがある。左右の靴を履き間違えることがあるので、履く前や履いてから教員と確認をし、履き直している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>教員の促しがない場面では座って履くことがあるため、促しや見守りは必要である。立位で履くことができた時に、ほめることは有効であった。友だちの励ましがあつた時には、立位で履き替えていた。友だちからの励ましも有効であった。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>引き続き、立位での靴の脱ぎ履きに取り組むことが課題である。ほめることは有効であるため、立位で脱ぎ履きができる時には、ほめて達成感をもつことができるようにする。また、中庭で身体を動かして、遊びの中で体幹を鍛えていく。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、□その他（）
	• 対象児童生徒の課題	課題： <ul style="list-style-type: none"> <li>• 上着を自分で引っ張って脱ぐ。</li> <li>• 健康観察簿を保健室まで落とすことなく持って行く。</li> </ul>
	• 自立活動の目標	• 上着を自分で脱ぐ。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握 <u>身体の動き</u> コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 初めは教員と一緒に取り組んで上着を脱ぐ動きを覚える。自分で出来るようになったらその分の支援を減らしていく。</li> <li>• 教員と一緒に健康観察簿を提出に行く。途中で落としたりその都度言葉かけをして意欲を持ち続けるようにする。無理強いすることなく係活動を楽しんで取り組めるようにする。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上着の裾を頭まで上げてから裾の橋を持たせると自分で引っ張って脱ごうとしていた。頭と腕を服から脱ぐことが課題。</li> <li>• 気持ちが安定している時は健康観察簿を見せると自分で抱えるように持って保健室の方へ歩き始めた。階段では観察簿を投げることが多い。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 信頼関係が出来てくると課題に取り組むことが見られるようになってきた。</li> <li>• 無理強いをすると心を閉ざしてしまうように見える。あそびの中で課題に取り組むような場面では意欲的に取り組むことができた。</li> </ul>

<p>グループ討議</p>	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動前や活動中に本児が楽しいと思う遊びを取り入れるなどして本児が積極的に取り組めるようにする。</li> <li>本児のペースや気持ちに合わせて取り組む。</li> <li>オーバーリアクション、刺激多めな関わり。</li> </ul>
<p>2学期の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちが安定して自分の取り組みに対して積極的になっている時は椅子に座って着替えの体勢に入ると自ら服の袖をつかんで引っ張る動きも見られた。半分ほど脱がず介助をすると後は自分で脱ぐことができた。</li> <li>本児が不安な気持ちや怒りなどを感じないように配慮したので自立活動の課題にもスムーズに取り組むことができた。</li> <li>本児が好きな歌や手遊びなども取り入れながら取り組むと積極的な姿勢が見られた。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>どの教員が指導しても、少ない支援で自分の課題に主体的に取り組むことができる。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（脳性まひ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：更衣時に服を前後反対に着ることが多い。無地のTシャツやボーターなど前後が分かりにくい服が多い。これまでは保護者の方に服に目印をつけてもらい前後が分かるようにしていたが、服のサイズアップのため目印がない服が増えてきている。また、前後を間違えていることに気づかないことが多い。前後を意識した更衣が本児の課題である。
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 服の前後が意識できる。</li> <li>• タグの位置から服の前後が分かる。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体動き</span> コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 更衣前に教員と一緒にタグの位置を確認し、前後が意識できるようにする。</li> <li>• 更衣後に前後があっているか確認できるよう言葉かけをする。</li> <li>• 更衣後に上衣のタグが前がないことを教員と一緒に確認する。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• タグが前側に来ていないことを自ら確認し、前後があっているという自信があるときには自ら前後があっていることを話してくれた。</li> <li>• 前後判別用のボタンがついたズボンは前後を自ら確認し、履くことができた。</li> <li>• ポケットの多いズボンや前後の判別が難しいズボンは前後を間違えることが多い。また、そういったズボンは履きなおしを促したが、前後が逆のまま履きなおすことも多かった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の更衣で前後があっているかの話をする中で、本児が前後を意識するようになった。</li> <li>・ 前後の目印になるものがある服は間違えた後の更衣で目印を示すことができたが、前後の判別が難しい服では目印を示すことが難しく、2度目の更衣でも前後を間違えることが多かった。</li> </ul>
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更衣前にタグをもとに前後を確認し、裏面に養生テープなどで印をつけて、更衣時に前後が視覚的にわかるようにする。</li> </ul> SST →正のフィードバック（ほめる）：行動の強化
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更衣前に前後を確認し、養生テープを貼りつけるときには前後の判別をすることができていた。</li> <li>・ 養生テープで印をつけることで、上衣の前後を間違えずに更衣することができた。</li> <li>・ 更衣室に忘れ物をする事が多かったため、更衣室にはいかず、教室で男性教員が見ている中で更衣するようになった。教員の言葉かけで前後を間違えず更衣することが多かった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養生テープを貼ることで目印になり、前後を間違えず上衣を更衣することができたので、効果的だった。</li> <li>・ 更衣以外の時間に前後を意識して上衣を着る練習をしていく。(ex:大きいサイズで服の上から前後を意識して着る。)</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服の前後が意識できる。</li> <li>・ タグの位置から服の前後が分かる。</li> <li>・ 次回懇談時に前後の判別が簡単な服の購入をお願いする。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• 手先が不器用なため細かい動作や作業が苦手である。やるべきことは分かっているが、集中力が少なく長い時間取り組むことが難しい。
	• 自立活動の目標	• 更衣の際、脱いだ衣服を自分でたたむことができるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 <span style="border: 1px solid black;">身体の動き</span> コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 大きな動作で衣服をたためるよう、衣服を置き、数回操作することでたたむことができるボードを用意することでたたむ手順を覚えることができるようにする。次にクリアファイルに襟部分を合わせてたたむことで崩れずにたたむことができるように支援する。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 教員と一緒にたたんだり指示されながら一人でたたんだりすることを繰り返すことでたたむ手順を覚えることができボードを使って一人でたたむことができるようになった。また、たたんだ衣服を崩さないように風呂敷の上に置くこともできた。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 左右の袖をたたむ順序を固定することで児童に伝わりやすかった。他の児童がたたむ様子を見せることも効果的だったと感じた。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	• 手本を見せる（教員・児童）は有効ではないか。 • 定期的と一緒に取り組む。

2学期の振り返りのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>教員の言葉かけなく自ら更衣、脱衣した服をたたむことができるようになった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>繰り返し行うことや、大いにほめることが児童のやる気ややってみようという気持ちに繋がったように思う。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>更衣までの時間、終わった後の移動については言葉かけが必要、スムーズに行えるように指導、支援するためにどのようなことを目標にしていけばいいのか。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ダウン症候群 ）
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体幹が弱いため、正しい姿勢を維持するのが難しく、猫背になっていることが多い。</li> <li>• 運動動作がスムーズに行えず、手足の動きと体の動きの連動がうまくできない。</li> </ul>
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 立位で、登校靴から上靴（上靴から登校靴）に履き替えることができる。</li> <li>• 登下校の着替えにおいて、立位でシャツの袖やズボンの袖を持って腕や足を抜き、シャツやズボンが裏返らないように脱ぐことができる。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span> コミュニケーション
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 壁にもたれて、右足（左足）を上げて左手（右手）で靴を脱ぐ、身体の使い方を繰り返し練習するようにする。</li> <li>• 右腕（左腕）の袖を左手（右手）でつかんで腕を抜くなど、交差させる身体の使い方を繰り返し練習するようにする。</li> </ul>	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 壁にもたれると靴の履き替えは自分でできるようになった。また、立位でシャツやズボンも脱げるようになったが、裏返らずに脱ぐことは難しかった。</li> <li>• 課題としては、教員が見ていなかったらやろうとしないことである。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本児の体を動かしながら教えることで、体の使い方が身についていったように思う。今後の課題は、できるのにやらないという心の成長を促すことである。</li> </ul>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSTの反復練習（繰り返す）：行動形式 繰り返し練習することで行動が身についていく。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期から繰り返し練習することで、長袖の袖を持ったり長ズボンの裾を持ったりすることで裏返らずに脱ぐことができるようになってきた。</li> <li>カーテンの外から代わる代わる担任に声をかけられることによって、自ら着替えようとする様子が見られるようになってきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本児の体を動かしながら教えることで、体の使い方が身についていったように思う。課題としては、まだまだ大人の目がないと着替えようとしにくいことである。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>○目標 立位で長ズボンを履くことができる。</p> <p>○課題 教員の見守りがなくても一人で着替えることができる。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小					
	• 学年	高					
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）					
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 急いで物事を終わらせようとするため動作が雑になることが多い。</li> <li>• 指先を使う細かい動作を集中して行うことが苦手である。</li> <li>• 周りが気になり集中力が続かない。</li> </ul>					
	• 自立活動の目標	• 給食の三角巾を机の上で固結びすることができる。					
	• 上記目標に対応する区分	<table border="0"> <tr> <td>健康の保持</td> <td>心理的な安定</td> <td>人間関係の形成</td> </tr> <tr> <td>環境の把握</td> <td><span style="border: 1px solid black;">身体の動き</span></td> <td>コミュニケーション</td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	<span style="border: 1px solid black;">身体の動き</span>
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成					
環境の把握	<span style="border: 1px solid black;">身体の動き</span>	コミュニケーション					
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 回目の結び目をどこまで結べばよいかわかるように、印をつけたり型を用意したりする。</li> <li>• 教員と一緒に手を添えて繰り返し取り組む。徐々に支援を減らす。</li> <li>• 落ち着いて取り組めたときには大いに褒め、達成感を感じられるようにする。</li> </ul>						
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 初めはイライラしながら取り組んでいたが、何度も一緒に取り組むことで見通しが持てるようになり、落ち着いて取り組めるようになった。</li> <li>• 2 回目を結ぶときは布が短くなり難しそうにしており、支援が必要。</li> </ul>					
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 回目の結び目を洗濯ばさみをはさんで印にしたが、力加減が難しかったため、教員が三角巾を持って結び目で止めた。繰り返し取り組むと途中で止めることが分かるようになった。</li> <li>• 徐々に頭の後ろで結ぶことにつなげたい。</li> </ul>					

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になった支援方法等</li> </ul>	<p>SSTのポイント②行動リハーサル：体験学習</p> <p>③正のフィードバック（ほめる）：行動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角巾の角に小さなリングをつけたり、ボールで型を作ったり、視覚的な支援を増やし、繰り返し取り組む</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の言葉かけや少し手を添えるなどの支援があると、落ち着いて取り組めるようになった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールと滑り止めシートで型を作った。一人で取り組める部分が増えた。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>目標：教員と一緒に、頭の後ろで三角巾を結ぶ経験を積む。</p> <p>課題：早く給食の用意をしたい気持ちがあり、いつも急いで焦っている。課題を上げると、不安や焦りから気持ちが不安定になる。褒められると嬉しそうにするので、取り組むたびにたくさん褒める。教員と一緒に落ち着いて取り組み、できた経験を積んでいきたい。</p>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の言葉かけを模倣して「大丈夫、大丈夫」と言いながら手すりを持たずに階段を一人で上がろうとするようになった。階段を一段一段踏みしめる力も強くなり、ふらつきながら階段を上がることも少なくなってきた。今後も継続して取り組んでいくことでよりしっかりと階段を上がることができるような様子である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスボールの上に座って跳ねる遊びをするようになり、回数を重ねていくことでその場で安定して跳ねることができるようになった。足腰や体幹が鍛えられ今回の結果につながったと考えられる。</li> <li>・取り組み始めたころは手すりや教員に体重をかけて身を預けている状態だったが、続けることで手すりを持たずに階段を上がることができるようになったので継続することの重要性を改めて感じた。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手すりを持たずに一人で階段をより安定して上がることができる。</li> <li>・階段を一段一歩で降りる経験を積む。</li> </ul>



グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排尿が成功した時に、称賛することが大切</li> <li>個室での時間が楽しすぎる場合は、一人で過ごすようにすることも必要か（一人で個室にいた際、立って便器外で排尿したこともあるので、注意が必要）</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時はいてくる紙パンツに排尿がない日が数回ではあるがあった。</li> <li>回数的には多くないが、パットや紙パンツへの排尿を我慢する様子が感じられ、トイレで排尿する意識が少し育っている。</li> <li>パットへ排尿していそうなとき、股を触る。排尿感覚が育ってきている。</li> <li>トイレに座った時には、少量でも排尿するようになった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスの状況で継続して行うことが難しかった。</li> <li>療育整体という手技を通して、身体を整えるアプローチを行った。排尿時の場面以外でも身体の使い方が上手くなっていることから、身体の状態が少しずつ整ってきていると考えている。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時にトイレへ行き、定時排尿を目指す。</li> <li>様々な身体の使い方を覚え、排尿感覚をつかめるようになる。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、■ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• 靴を履くときに、床に座り込んで履こうとする。
	• 自立活動の目標	• 立ったまま靴を履き替えられるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握 <u>身体の動き</u> コミュニケーション
	• 支援の手立て	• イラストや動画を見せて、立ったまま靴を履き替えるイメージをつかめるようにする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	イラストを見せたがあまり改善は見られなかった。しかし、手をつないで「立って履き替えるよ」と声かけをすると、立位のまま履き替えられる回数が増えてきた。今後は手をつなぐず、声かけをせずとも立位で履き替えられるように習慣化していきたい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	初めに見立てたイラストの使用はあまり効果的ではなかったが、違う手法で成功例が見られたのはよかった。今後どう習慣化させていくかが課題。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	• 動画（手間がかかるけど） • 座らないような工夫（手をつく場所を示すなど） • 本人がやっているところを撮影してフィードバックする • 気持ちを乗せる（好きな曲、動画など）
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	「座らないような工夫」というところで、手すりを持つように言葉かけをすると、手をつながなくても立って履きかえることができるようになってきている。しかし言葉かけをしないと座りこんで履きかえてしまう。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>持つべき場所を具体的に示して言葉かけができたことはよかったと思う。言葉かけがなくても立位で履き替えられるような意識づけが今後の課題。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉かけをすれば立位で靴の着脱ができるようになったので、来年度は視覚的支援をより充実化させ、言葉かけがなくても立位での着脱ができるようになることを目標とする。また着替えの場面ではまだ立位での衣服の着脱ができていないので、来年度以降の課題とする。</li> </ul>